
死後からの使者

l a s t l o n e l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死後からの使者

【Nコード】

N9694Y

【作者名】

last lonely

【あらすじ】

死後からの使者・・・あなたのもとへくるでしょう。

あなたが自分の罪に気づかないのなら・・・気づかせてくれるでしょう。

気づいたときあなたは・・・生きられますか？

罪に気づかない人間のもとにやってくる者
その告白を受けた人間はいろいろな道へと進んでいく
罪に気づいた彼らのとった行動とは？

(前書き)

本当の幸せのその後の話です。

あなたは、死後の世界を信じますか？

あなたは、生きる目的がありますか？

あなたは、大切な人を愛せていますか？

人は己の価値観でしか物事を図れない・・・誰かに言われた。
人の生を奪ったうえでの幸せなどはない・・・誰かに言われた。
人を人として見ないうちは人じゃない・・・誰かに言われた。

俺の目の前に広がる世界・・・殺風景な世界だ。

砂と枯れ枝と永遠と続く漆黒の世界、そして俺の頭上には、また

同じく永遠を小さく照らす月。

それが俺の存在している世界だ。

？「ほら、きてるぜ・・・いつもの」

心「ああ、わかった・・・」

？「今度お前どこよ？」

心「・・・東京」

？「へーいいねえ、都会はさ」

心「そうでもないだろ・・・おまえは？」

？「俺は神奈川・・・」

心「そっか、大変だな」

？「まあ、また31日後話そっせ」

心「ああ、じゃあいつてくる。」

目を閉じて渡された紙をいつもどおり・・・破る。
ブリッ・・・

?「・・・・・・・・いつてらっしゃい。」

↓死後からの使者↓

キーンコーンカーンコーン

高貴「ふああああ・・・ねみー」

加奈「何寝てるんだ?またバイトか?」

高貴「あ、加奈かー。もうマイリマンボー。シフト入れてきてさー。もうマイリマンボー。」

加奈「ふーん、頼りにされてるんだ良かったじゃん。」

高貴「たりめーだろ、あの店俺がいねーとつぶれるからな、マジで」

加奈「はいはい、それにしても暑いねー」

下敷きで胸元を仰ぐ加奈・・・

こいつ最近妙に乳でかくなってきたよなー。まあ元が標準以下だからたいして大きくはないんだけどもね

加奈「なによ、なにじろじろ見てんのよ」

高貴「いや、お前最近きゆうに胸がでかくなったよなー。ってごべヴァー」

加奈の左拳が俺の美しい顔面へと特急列車のごとく入った

高貴「いてえー。いたい。いいいしぬづづう。」

加奈「バカなこと言っでんじやないわよ。」

俺の名は上田高貴（うえだこうき 17歳）バイト有 収入有
知能無 彼女無 容姿上の中（自称）

俺の17年の人生ステータス早見表だ、まあ人並みだ・

この俺の席の前にいるおっばい絶賛急成長中女は吉井加奈（よし
いかな 17歳）バイト有 収入有 知能有 部活有 スポーツ万
能 彼氏無 資格多数所持 容姿上の上 両親は医者と教師 e t
c . . .

へっなんかマンガみたいな女だよな、くそう。

あーなんでこんなウルトラ完璧超人女と俺が一緒にいるかって？
あれですよ、よくある幼馴染ってやつですよ、まあ実際幼馴染つ
て物心ついたところにはお互い恥ずかしくなって疎遠になったりする
もんなんだろうが、この女の辞書に恥ずかしいなんて文字は登録さ
れていないらしく今現在までずーーーーーとこんな関係です。

恋愛対象にはならないのかって？あほか、こんな無敵女相手にで
きんの神様ぐらいのもんだぜ。

いやほんと、心の底からそう思うぜ。

もしこれと付き合いたいなんて思うやつは俺が必ず「この先危険」
の標識をそいつの生活空間全域に張り巡らしてやる予定だ。

加奈「あんだ、最近あたしにセクハラばっかするでしょ、なんで
？」

高貴「そうか？そりやすまねーな」

加奈「・・・そう・・・はい、それよりさっきの授業のノート」

高貴「あ、さんきゅ」

加奈「昼休み中にちゃんと写しておくこと。」

そう言い終わると加奈はどこかに走って行った。せわしないやつちや。基本面倒見はいいんだよな、そのおかげで俺が県内有数の進学校に入学できたのもあいつのおかげなんだよな。ま、おかげで授業の半分以上は意味不明だけどな（内容が難しすぎて）

そんなこんなでノートを写し終えた俺は6時間目が終わるとまっすぐ家へと帰った。

高貴「10時か・・・やべ宿題終わってねーし」

コン・・・

高貴「ん？窓に誰か何かぶつけたな。」

ガララー窓を開ける。そこにはポニーテール姿の加奈がいた。

高貴「俺の家のガラスを割る気か？」

加奈「そんなことどうでもいいじゃない。それより下に降りてきて。」

でけえ・・・態度が・・・ハアー

高貴「なんすかねえ？」

加奈「宿題、どうせやってないんでしょ。あたしのノート貸すから。」

高貴「ああ、いつもすまん。今までバイトだったんだろ？それで放課後は部活だったんだろ？」

加奈「そうよ。」

こいつはいつたいたい宿題をかたずけるヒマがあったんだよ。相変わらずすげーわ。

加奈「・・・」

高貴「どしたよ？」

加奈「なんでもないわよ。」

高貴「そうかー？」

加奈「うるさいなー、なんでもないって言ってるでしょ。」

高貴「へーへー」

ま、こいつの悩みなんてどーでもいーや、わるいけどこいつの悩みなんて超完璧人間の悩みだろうから俺みたいな一般人にはわかりっこねーんだ。だから聞かない。それが俺からできる最高の優しさってもんじゃないかと思うんだよな。適材適所ってやつさ。

高貴「じゃあ、ありがとな。明日必ず返すわ。」

加奈「あ・・・」

高貴「・・・おやすみ。」

加奈「・・・おやすみ。」

ボタン、ガチャ。・・・宿題でもやるか。

カクン・・・っなんだ立ちくらみ？視界が歪む？なんなんだこれは？・・・ドサッ

心「・・・始まった・・・」

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9694y/>

死後からの使者

2011年11月29日02時47分発行